

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第745号 平成26年6月2日

カラスを食べる文化？

我が国に、カラスを食べる文化があるという事は、露程も知りませんでした。

朝日新聞（4月5日付）によると、都市部での雑食が目立つカラスが、茨城県の一部地域では食用とされており、地域の人たちが特産品にできないか、研究を始めているのだそうです。カラスを食用にするというのは戦後間もない頃から始まったもので、地元では今日まで続く食文化として捉えている様です。

ひたちなか市の獣医師安富康さんは、カラス料理を食べた感想を「色々な動物を食べてきたが、軟らかく甘みがある」と話しているそうですが、さて、皆さんはどう思われますか。

中国人は「四本足は机以外、飛ぶ物は飛行機以外、水中の物は潜水艦以外何でもなんでも食べる」といいますが、日本人も、負けず劣らず何でも食べる人種だと思います。

居ながらにして古今東西の料理を食べる事が出来るというのは、日本位かも知れません。ただそれにしても「カラスとはなあ」というのが率直な感想です。

とはいうものの、昔ゲテモノを食べようという話しになって、スズメの丸焼きを食べた事がありますので、私もあまりきれいごとはいえません。

カラスを食べると聞いて「え～」と思うのは多分私だけではないと思いますが、それはカラスの肉が美味しいとか不味いとかいう以前の感覚がそうさせているのだと思います。

ネットで調べてみると、中国や韓国にもカラス料理はあるものの、大衆料理とはいえない様です。

だいたいカラスというのは真っ黒で不気味だし、鳴き声は耳障りで、しかも雑食とあって、焼き鳥のイメージには結びつきません。でも、考えるまでもなく、カラスも鳥に違いありませんから、焼き鳥にして食したとしても何ら不思議ではありません。

中国では、羊頭狗肉という言葉があるように犬も食用になっていますが、全国で犬を約1150万匹も飼育している日本人としては、これも「え～」という感じではないかと思えます。

これ以外にも、何を食べるか、食べないかというのは、民族の違いや宗教の影響等により様々です。まさに、食は文化そのものという事です。ですから、ある国や

地域の人が自分の食べないものを食べているからといって、その事で野蛮だとか遅れていると決めつける事は出来ません。何故なら、その国や地域の食を否定する事は、その国や地域の文化を否定する事になるからです。

ところで、もしもカラスが、カモの様に綺麗で可愛かったらどうなっていたでしょうね。もしかしたら今頃は、絶滅危惧種になっていたかも知れませんね。少なくとも、皆から冷たい目で見られる事はなかっただろうなと思いますが、でも食べられずに済んでいるというのは、カラスにとっては幸いです。

もっともカラスからは、「そりゃカラスの勝手でしょ」といわれそうですが…。

(塾頭：吉田 洋一)